

新聞活用による情報リテラシーを育む教育の実践

～普通科・看護科の特色を生かし、社会に貢献できる人材育成をめざして～

加茂暁星高等学校

1 NIE 実践のねらい

国内外への視野拡大，スポーツや看護の精神の醸成といった目的に沿い，新聞を通して社会情勢や時代の動きを理解させたい。特に社会情勢が目まぐるしく変化している昨今において，さまざまな情報から取捨選択を迫られている中で，生徒一人ひとりに読解力，分析力，判断力などを持たせたい。テーマを設定し協働的に学習する機会を与えたり，主体的に思考する環境を与えたりすることで問題解決能力を育み，進学や就職に興味・関心を高めるきっかけにも情報の宝庫である新聞を活用したい。

＜生徒に身につけさせたい能力＞

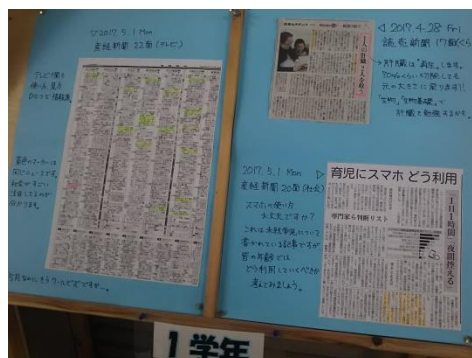
- ① 視野を拡大，自身の考えを深化させることができる能力
 - (ア)さまざまな情報から多面的な捉え方ができる
 - (イ)問題を発見し，国内外から適した解決方法を選択し，応用できる
- ② 読解力，分析力，判断力
 - (ア)社会の人々がどのように考えているかを読み取ることができる
 - (イ)スポーツや看護の精神を汲み取り，自分の生活に生かすことができる
- ③ 自身の考えを表現できる能力
 - (ア)レポート作成ができる
 - (イ)協働的学習において意見を発信できる
 - (ウ)論理立ててプレゼンテーションできる

2 実践概要

平成 29 年	担当	活動内容
5 月	NIE 担当	読売新聞投書
5 月～9 月	各学年	NIE コーナー 学年企画スクラップ
7 月		第 24 回 新聞記事感想文コンクール(夏季休業中課題) *1 名 佳作
7 月，10 月	全職員	校内研修教科別実践
11 月 6 日	NIE 担当	NIE 実践研究発表会(分科会・全体会・講演) 講演 新潟県 NIE 推進協議会 伊藤 充 会長

平成 28 年度から新潟県新聞活用教育(NIE)の指定となり，おもに企画広報部

教職員が新聞を活用，実践してきた。1 年次では NIE コーナーの設置や感想文コンクールに応募するなど実施したが，新聞に触れる生徒は限定的であった。2 年次ではより身近に感じてもらえるように学年企画でスクラップを行った。また，全教科で新聞を活用した授業を展開するよう働きかけた。



(1) 新聞活用授業展開されたクラスの割合

100 % (1 年次参考数値 29.4 %)

(2) 新聞活用授業展開した教員の割合

38.2 % (1 年次参考数値 14.7 %)

(3) 7 月校内研修教科別実践時の生徒の反応(一部教科抜粋)

教科(テーマ)	生徒の反応
国語 (住環境や食生活に関する新聞制作学習)	・私は語彙力がありません。語彙力をつけるためにも新聞を読むことは大切。 ・聞き手の関心がどこにあるか，どのように伝えるかなど質問の仕方学べた。 ・自分で作成して苦労したので，もう少し細かいところも読んでみようと思った。
数学 (新聞に使用されている数字の読解)	・新聞から様々な情報を調べ，数学(数字)を活用することができた。 ・新聞を注意深く読む機会ができたので色々な新聞を活用して学習してみたい。 ・新聞で得られる情報が思っていたよりも多かったことに驚きました。普段家で新聞を読んでいないのでこれからは新聞を読んで知識を増やしたいと思った。
理科 (エネルギー問題についての読解)	・写真と文章でわかりやすく情報が伝えられていると感じた。 ・文章に難しいところもあったが知識は少し広がった。

(4) 実践例 1(国語)

① 対象生徒・集団

普通科スポーツコース 2 年 3 組

(男子 22 名，女子 0 名，計 22 名)

② 科 目 名 現代文 B (単位数 2)

③ 単元 (題材) 名 「言語活動 情報の探し方③インタビューをする」
(テーマ: スポーツ)

④ 目 標

目的や課題に応じて、自らが収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に発表する。また、スポーツ科としての特色を活かし、「スポーツ」をテーマにインタビューと新聞記事作成を行う。

- ・学習を通してグループで行ったインタビューのメモを参考に、記事としてまとめる。
- ・メモと記事を比較検討し、違いや変化を考えさせる。
- ・5W1H を基本の構造で新聞のまとめ方を参考に、伝わりやすい文章を作成する。

⑤ 単元の指導計画 (総時間数 5 時間)

第一次 インタビューに必要な準備を行う (1 時間)

第二次 インタビューを行う (1 時間)

第三次 インタビューの内容を新聞記事のようにまとめる (2 時間)

第四次 まとめたものを発表する (1 時間・発表時)

⑥ 評 価

事前調査では新聞を読む生徒が 14%であったが、授業後に 52%まで上昇した。寮生活で新聞に触れることがない生徒が多い中、新聞を読むことの楽しさやスポーツだけでなく政治・経済欄などに興味を示す回答が得られた。またインタビュー記事をまとめることの難しさや表情や仕草などを言語化することの重要性に気づいた生徒もいた。生徒や学生のスポーツ選手が言葉にして何かを伝えるという習慣は少ないというなかで、国語と新聞を通して活動したことは生徒たちにとって意義あるものであった。



⑦ 生 徒 の 声

- ・新聞のことについて楽しさが分かりました。
- ・インタビューのメモを記事にまとめるのが難しかった。発表時に話す内容を考えることも難しかった。
- ・スポーツや文化面の記事を読んでいるが、政治や経済面についても読めば知識が増えると思うので、もっと読んでいきたい。

- ・新聞には同じ種類の新聞でも、色々な書き方や伝え方があるというのが面白かった。
- ・授業の際に配られた新聞の文章が興味を引く文章でつい真剣に読んでしまった。
- ・新聞の書き方、作成の仕方が分かり非常に良い機会でした。見出しの工夫もできたり、レイアウトもうまくいった。

(5) 実践例 2(英語)

- | | |
|-------------|---|
| ① 対象生徒・集団 | 普通科探究コース 1 年 1 組
(男子 13 名 女子 5 名 計 18 名) |
| ② 科 目 名 | コミュニケーション英語 I (単位数 4) |
| ③ 単元 (題材) 名 | 移民政策に関する調査と発表 |
| ④ 目 標 | |

「日本の食文化」というテーマで英語でのプレゼンテーションを行っており、グループでの発表は今回で、2度目となる。前回は自分たちが作成した原稿を読むので精一杯であったが、今回はできるだけ、原稿を見ないで発表することに挑戦する。プレゼンテーションを通じて、「聞く、話す、読む、書く」の4技能を高めることを目指す。

- ・各国の移民政策について関心を持ち、自ら意欲的に調べたりまとめたりできる。
- ・移民政策について最新の動向を調べ、様々な資料を選択して活用できる。
- ・各国の移民政策についての知識を身につけ、それぞれの国の特徴を理解できる。
- ・英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ・英語でのディベート形式のルールを理解し、役割をもって活動できる。

⑤ 単元の指導計画（全11時間）

- | | |
|-----|------------------------------------|
| 第一次 | 日本や世界の移民政策の状況を理解する（1時間） |
| 第二次 | プレゼンテーションの説明・グループ決めと役割分担（1時間） |
| 第三次 | インターネットで新聞記事を収集する。・背景知識を増強する。（3時間） |
| 第四次 | パワーポイントのスライド作成。・発表原稿作成（3時間） |
| 第五次 | 原稿の読み合わせ　・発表練習（1時間） |
| 第六次 | リハーサル（1時間） |
| 第七次 | プレゼンテーション（1時間） |

⑥ 評 価

このクラスは探究コースの中でも新聞の必要性を感じている生徒が少ない状況であった。

授業展開前では 63%の生徒が「新聞が必要である。」と答えていた(探究コー



(6) 実践例 3(看護)

④ 目 標

(エ)子どもが健全な成長発達を遂げるための小児保健・福祉に関する基本的な法律や制度を理解することができる。

第二次 子どもと家族のための法律・施策
(5時間)

⑥ 評 価



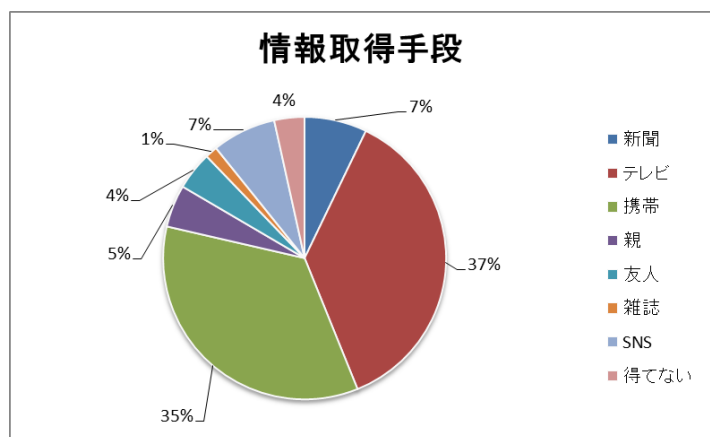
⑦ 生徒の声

- ・情報を自ら集め、世の中を見据えられるような人間になりたいので、新聞を読む習慣もいずれつけていかななくてはと考えている。
- ・社会で行われていることが書いてあり、自分の新たな知識が身につくと感じた。
- ・教科書には掲載されていないようなことが載っていたり、自身の考えを共有したりすることで学びが深められたと感じた。
- ・なんとなく流し読みをするのではなく、興味のある記事を探して読み進めて社会の状況や動きを知ることが求められるのだと思った。
- ・今後の看護の変化などについても書いてあると思うので、医療のあたりは積極的に読んでいこうと思った。
- ・携帯やニュースだけでは知れないことが新聞には載っているのだと分かったので、こまめに読んでいきたい。
- ・新聞を読む機会ができて良かったです。携帯で読んでいる文字と違い、新聞記事は読むのに時間はかかるが語彙力がつくと思った。



3 成果と課題

実態として情報取得手段が TV、携帯、SNS で 79%を占めている。大きな意識改革は見られなかったが、各クラスで新聞を活用した授業を展開することで新聞に対する見方が変化した生徒も少なくない。普通、スポーツ、看護と多種多様な目的を持ち、入学してきている生徒たちではあるが、新聞から情報を得るということに肯定的意見が多く寄せられた。新聞を活用する前後で新聞は必要であると回答した生徒も増え、大きい上昇傾向の見られたクラスもある。7月の教科一斉実践でほぼすべての教科で授業が展開されたこともあり、今後も適宜、新聞を活用して展開される授業で読解力や表現力などを生徒に身につけさせたい。ただ、授業を作り上げる上で教員側もある一点の視点からでなく、多面的な見方が要求されるのだと改めて感じさせられた。



新聞は必要	活用前	活用後
普通科	62.5 %	87.5 %
看護科	70.6 %	80.6 %